

新年のご挨拶

日本内燃機関連合会

会長 高畑 泰幸

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、日本内燃機関連合会(日内連)を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年も一昨年に続き新型コロナウイルスのパンデミックに大きく影響された1年となりました。感染力の強いデルタ株による第5波では感染者数が医療機関のキャパシティを超え、自宅または宿泊療養を余儀なくされるなど、43都道府県で「爆発的」とされる「ステージ4」となる極めて厳しい事態となりました。ワクチン接種が進んだことによる感染抑制効果もあったのか、その後収束に向かい9月末には緊急事態宣言が解除されるに至りましたが、本稿執筆時点(2021年12月中旬)で新たな変異株による感染拡大が強く懸念されており、予断を許さない状況です。新型コロナウイルスのパンデミックによる被害にあわれた皆様はこの場をお借りしてお見舞い申し上げます。このパンデミックは我々の働き方を大きく変化させ、所謂リモートワークが一般的となりました。日内連、CIMACの会議も殆どすべてがリモート会議として行われていますが、おかげさまで会員各社、各団体の皆様のご支援により日内連の活動を滞りなく進めることができたことに御礼申し上げます。



ご存じの通り、2018年に国際海事機関IMOの海洋環境保護委員会MEPCにより温室効果ガス(GHG)削減戦略が採択され、国際海運全体でのGHG削減目標として、2030年までに効率40%以上改善、2050年までに総排出量50%以上削減、今世紀中なるべく早期に排出ゼロを目指すことが合意されました。又、2020年には当時の菅首相により2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことが宣言され、更に昨年には2050年目標に整合する野心的な目標として、2030年にGHGガスを2013年度から46パーセント削減することを目指すこととされました。

CIMACではIMOのGHG削減戦略を受け設立されたGHG Strategy Groupが、IMOのGHG削減目標に適合できるのはゼロカーボン燃料焚き内燃機関(ICE)であるとの見解を示すと共に、関連する幾つかの有用な白書を発行しています。又、我が国では産学官連携の「国際海運GHGゼロエミッション」プロジェクトにより、2028年には第一世代ゼロエミッション船の実船投入が計画されています。これらは水素燃料船、アンモニア燃料船、排出CO₂回収船等であり、解決すべき課題は多いと思われませんがGHG削減に於いて内燃機関への期待は益々大きくなっています。

さて今年は、コロナパンデミックの状況悪化による延期の可能性は残るものの、第30回のCIMAC大会が釜山で開催される予定です。この大会のトピックスは、Intelligent Power Systems、Towards Zero Emissions、Proven Technologies、Fundamental Researchの4つです。セッションオーガナイザーによる総数約580件の論文アブストラクトの審査、絞り込みが為され、4つのトピックスに属する全46セッションで約200件の論文が発表されることとなりました。この他にも従来通りポスターでの論文発表、パネルディスカッション、キーノートスピーチが行われ、Meet the Speakers等の新たな形式も計画されています。第30回のCIMAC大会への皆様のご積極的な参加をお願いいたします。

最期に、本年も引き続きCIMACとの連携を図りISO・JIS関連の標準化事業を通して会員の皆様のお役に立てるよう尽力して参りますので関係各位のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。本年が会員の皆様とご家族にとり、健康で実りの多い年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。